

令和6年度
中堅教諭等資質向上研修
(養護教諭)

実施要項・様式集

問い合わせ先

島根県教育センター 企画・研修スタッフ
〒690-0873 松江市内中原町255-1
TEL (0852)22-5853 FAX (0852)22-5581

島根県教育委員会

島根県の教職員として求められる資質能力

教職員として求められる資質能力は、普遍的でいつの時代にも求められるものと、時代の変化に対応してその時代時代に求められるものがある。社会の変化や時代のニーズに応える学校教育の実現には、教職員の職務に応じた資質能力の向上が不可欠である。職務に関わる専門的知識・技能の他、様々な課題に対応するための実践的指導力の向上を図るためには、常に探究心を持ち自主的に学び続ける力が求められている。また、学校組織の一員としてのコミュニケーション能力、他者と連携・協働する力も大切である。そこで、島根県の教職員として求められる資質能力を次のように定める。

島根県の教職員として求められる資質能力

- 豊かな人間性と職務に対する使命感
- 子どもの発達への支援に対する理解と対応
- 職務にかかわる専門的知識・技能及び態度
- 学校組織の一員として考え行動する意欲・能力
- よりよい社会をつくるための意欲・能力

キャリアステージに応じて求める姿と育成する資質能力

【採用までに身に付けておいて欲しいこと】

新規採用された段階。教職課程認定を受けた大学等、養成段階での学修等を通して、教育職員として勤めるための素養や基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けていることが必要である。

【自立・向上期(1～5年目)】

新規採用時からおよそ5年目までの5年間の期間にあたり、教育職員として授業や学級経営等の実践的指導力を身に付けて自立し、向上心を持って成長していく基盤を固める期とする。

【探究・発展期(6～15年目)】

およそ6年目から15年目までの10年間の期間にあたり、教育職員として意欲的に教育活動を実践し、得意分野を開発・探究していくなどにより専門的な知識及び技能の充実を図る期とする。

【充実・円熟期[前期](16年目～概ね25年目)】

経験16年目以降から概ね25年目の期間にあたる。教育職員として様々な教育実践を重ねることで教科等の専門的知識及び技能を高めるとともに、主任やミドルリーダーとしての自覚や責任を持って教育活動を円滑に進める資質能力を高めていく期とする。

【充実・円熟期[後期](概ね26年目以降)】

概ね経験26年目以降の期間であり、経験豊富で知見があるベテラン層の年代にあたる。教育職員として教科等の専門的知識及び技能をさらに高めていきながら、学校運営にも積極的に参画し、後進にも適切な助言を与えるなど人材育成を図っていく期とする。

島根県公立学校教育職員の育成指標

「島根県公立学校教育職員人材育成基本方針」

教諭等の育成指標

～学び続ける教育職員を目指して～

令和5年3月 島根県教育委員会

資質能力	キャリアステージ 〔採用までに身に付けておいて欲しいこと*2〕	自立・向上期 (1~5年目)	探究・発展期 (6~15年目)	充実・円熟期 (16~概ね25年目) 【前期】*3 (26年目以降) 【後期】	
		1 豊かな人間性と職務に対する使命感	①人間理解・人権意識 ②職務に対する誇りと責任 ③ふるさとを愛する心	・生命尊重・人権尊重の精神と、多様な価値観を尊重する態度を有している。 ・教育職員として必要な倫理観、職務に対する使命感・責任感を持ち、自分の将来のキャリアや求められる役割を意識しながら、変化に応じて常に学び続けようとしている。 ・危機管理の知識や視点を持ち、教育活動における事故・災害等に普段から備えている。 ・関係法の理念を十分理解し、教育職員等による児童生徒性暴力等を断固として許さず、子どもの尊厳を保持しようとしている。	・子どもの心身の発達やキャリア発達に対する理解を深め、個に応じた指導や学年等の集団指導を実践することができる。
2 子どもの発達の支援に対する理解と対応*1	④生徒指導の推進 ⑤特別支援教育の推進	・発達段階を踏まえた子ども理解・子ども支援、キャリア発達など生徒指導に必要な基礎理論・知識を習得している。 ・特別な配慮や支援を必要とする子どもへの指導に関する基礎理論・知識を習得している。	・子どもとのふれあいや観察を通して、様々な行動の内に潜む微妙な心の動き、キャリア発達を共感的に受け止め、良さや可能性を伸ばしながら、学級等の集団づくりを進めることができる。 ・特別な配慮や支援の必要な子どもの実態把握を行い、一人一人のニーズに応じた指導や支援についての計画を立て、実践することができる。	・子どもの心身の発達やキャリア発達に対する理解を深め、個に応じた指導や学年等の集団指導を実践することができる。 ・特別な配慮や支援の必要な子ども一人一人の支援計画・指導計画に基づき、学習上・生活上の支援の工夫、指導の実践を行うことができる。	・キャリア発達の視点をつまみ、教職員と協働したり地域社会や外部機関と連携したりしながら、さまざまな場面をとらえて子どもが自分らしい生き方を実現するための力を育成することができる。 ・特別な配慮や支援の必要な子どもに組織的に対応するための知識や方法を身に付け、家庭や地域等と連携することができる。 ・校内での支援体制の構築や関係機関及び異職種等との連携など、特別支援教育を組織的に推進することができる。
3 職務にかかわる専門的知識・技能及び態度	⑥教科等の指導に関する専門性	・教育課程の編成、教科等の指導方法に関する基礎理論・知識を習得している。 ・子どもと心身の発達や学習過程に関する理解に基づいて、興味・関心を引き出す教材研究をしたり、学習者中心の授業となるよう工夫したりすることができる。	・教科等を学ぶ意義を踏まえて指導計画を作成し、教科等の指導を実践することができる。 ・子どもと心身の発達や学習過程に関する理解に基づいて、興味・関心を引き出す教材研究をしたり、学習者中心の授業となるよう工夫したりすることができる。	・教科等の専門的知識・技能及び態度を高め続けることができる。 ・教科等の相互関連や学校段階間の円滑な接続を意識した教育実践を行うことができる。 ・校内研修の中心的な役割を担うことができる。	・教科等の専門的知識・技能及び態度をさらに高め、後進に適切な助言を与えながら、人材育成に取り組むことができる。
	⑦ICTや情報の利活用*4	・ICTを活用した授業デザインを実現するための、ICT活用に関する基礎的な知識（情報モラルを含む）や基本的な技能を有している。	・今まで学んできたICT活用や教育データ活用に関する基礎的な知識・技能を教科等の指導や校務に積極的に取り入れながら活用することができる。	・教育データを整理・分析し適切に業務に取り入れながら、ICTをより効果的な形で活用することができる。	・時代に即応した知見を取り入れつつ、さらに専門性の向上をはかりながら、同僚と連携・協働し、校内に広めていくことができる。
	⑧社会の変化への対応	・新たな学びや教育課題に対して、積極的に挑み試行錯誤しながら粘り強く取り組む意欲や探究心を有している。	・新たな学びや教育課題に対して、適切な対応の仕方を具体的に考え取り組むことができる。	・新たな学びや教育課題に対して、適切な対応の仕方を提案し、協働して取り組むことができる。	・新たな学びや教育課題に対して、長期的な見通しをもって組織的に取り組むことができる。
4 学校組織の一員として考え行動する意欲・能力	⑨学校組織マネジメント	・学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得している。	・学校教育目標に沿った自己目標を立て、その達成に向けて取り組むことができる。	・組織の一員としての役割を理解し、学校の課題に対応することができる。	・スクールリーダーとしての自覚や責任を持つとともに、企画力や調整力を発揮して教育活動を円滑に進めることができる。
	⑩他者との連携・協働	・集団で活動する際、自己を成長させようとする意欲や態度を有している。	・他の教職員の意見を活かしながら、自らの役割に応じて行動することができる。	・経験豊かな教職員から多くのことを学ぶとともに、同僚と連携・協働しつつ、後進に助言を与えるなどして育成にも目を向けることができる。	・他の教職員の役割分担や業務の進捗状況を把握・調整しながら、相互に支えあう体制づくりができる。 ・職場の同僚性が発揮できるような雰囲気づくりをするとともに、後進を育成する観点を持ちながら組織を動かしていくことができる。
5 よりよい社会をつくるための意欲・能力	⑪地域資源の活用と地域貢献	・学校教育活動を通して、地域社会に貢献することについて、自分なりの考えや意欲を有している。	・子どもと地域社会をつなごうとする意欲を持ち、地域と連携した学校教育活動を計画に基づいて実践することができる。	・学校外の様々な地域資源や機会を活用し、地域と連携した学校教育活動を効果的に実践することができる。	・地域にある他の学校および幼児教育・保育施設や行政との連携・協働について、円滑な接続を意識しながら企画力や調整力を発揮して、主体的・組織的に実践することができる。
	⑫合意形成に向けた議論の調整・促進	・子ども同士の話し合いの場面において、適切に働きかける力を有している。	・子ども同士が協働し、探究していく活動を円滑に実践することができる。	・現実の社会や地域との関わりを意識しながら、子ども同士が議論をしたり、合意形成を図ったりするよう促すことができる。	・地域課題解決型学習などを企画することができ、魅力ある地域づくりに向けた議論を効果的に調整・促進することができる。

*1 この指標において「子ども」とは幼児・児童・生徒のことである。

*2 「採用までに身に付けておいて欲しいこと」は、採用時における資質能力の目安として示した。

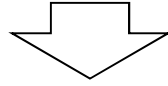
*3 「充実・円熟期」の「前期」と「後期」の境目は概ね25年目を目安とするが、個々の教員の実態に応じて柔軟に運用してよいものとする。

*4 指標⑦「ICTや情報の利活用」について、求められる資質能力と実態差がある場合には、技能に応じたキャリアステージを起点としつつ、可能な限り早期に自分のキャリアステージの資質能力を身に付けていくこととする。

中堅教諭等資質向上研修(養護教諭)概要

島根県公立学校教育職員 人材育成基本方針における育成指標「探究・発展期」

およそ6年目から15年目までの10年間にあたり、教育職員として意欲的に教育活動を実践し、得意分野を開発・探究していくなどにより専門的な知識及び技能の充実を図る期とする。

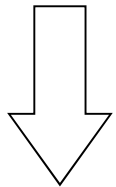


教職経験年数に応じた研修の一環として1年間の研修を実施

【目的】

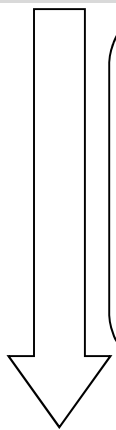
- ・養護教諭としての専門的知識及び技能を高める
- ・中堅養護教諭としての自覚をもって学校運営等の重要な役割や若手教員への指導的役割を果たす上で必要な資質能力を高める

計画等(4、5月)



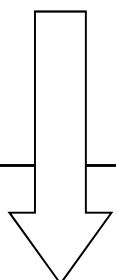
- ・自己評価
- ・計画書の作成・提出

研修内容(4月～2月)



- 課題研究[通年]・課題研究の発表[2回]
- 授業研究[1回]
- メンタルヘルス[1回]
- 中堅養護教諭としての取組[通年]
- 異校種体験研修[2日]※教職経験6年目研修で実施した者は除く
- 教育センター研修[4.5日]

報告(2月)



- ・報告書等の作成・提出

次年度の取組

目 次

島根県の教職員として求められる資質能力

島根県公立学校教育職員の育成指標

中堅教諭等資質向上研修(養護教諭)概要

中堅教諭等資質向上研修(養護教諭)実施要項

目的、研修の対象者、研修期間と認定、所属教育センター、校内の指導体制……………	2
研修内容……………	3
教育センター研修の期日・会場、研修項目等……………	5
教育センター研修項目別の目的と内容……………	6
研修計画、研修報告……………	7
提出物、提出方法及び締切日、その他……………	8

中堅教諭等資質向上研修(養護教諭)様式

様式1 資質能力自己評価表……………	10
様式2 計画書……………	12
計画書(記入例)……………	14
様式3 課題研究計画書……………	16
様式4 オンデマンド研修レポート……………	17
様式5 課題研究レポート……………	18
様式6 研究協議の記録……………	19
様式7 報告書……………	20
報告書(記入例)……………	22
参考様式① 研修依頼書……………	24
参考様式② 学習指導案(学級活動)……………	25
参考様式③ 学習指導案(教科)……………	26

この実施要項・様式集では、下表の左欄の表記を右欄の通り表記する。

島根県教育委員会	県教育委員会
島根県教育センター研修情報システム	研修情報システム

中堅教諭等資質向上研修 (養護教諭)

実施要項

中堅教諭等資質向上研修(養護教諭)実施要項

1 目的

教職経験年数に応じた研修の一環として、個々の能力や適性等に応じて、養護教諭としての専門的知識及び技能を高めるとともに、中堅養護教諭としての自覚をもって、学校運営等の重要な役割や若手教員への指導的役割を果たす上で必要な資質能力の向上を図る。

2 研修の対象者

(1) 公立の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び特別支援学校の養護教諭のうち、令和5年度末に、教職経験年数(以下「経験年数」という。)が10年以上の者で、中堅教諭等資質向上研修をまだ受講していない者を該当者とし、そのうち、令和6年度に研修を受講する者を対象者とする。(研修の年度については、本人の希望や学校の実情等を踏まえ、経験年数11年目から13年目の3年間のいずれかの年度で1年間受講するものとする。)

(2) 経験年数の計算にあたっては島根県教職員人事異動ルールに従う。なお、県外での経験年数も含める。

(3) 当該年度において、以下に所属又は派遣されている者は、研修を延期する。学校勤務になった年に受講することとする。

ア 行政機関

学校教育(学校訪問等を通じて学力向上、授業力向上等に係る指導助言等)に係る事務に主として従事しており、県教育委員会が当該者の経験の程度を勘案して、実施する必要がないと認める者は免除することができる。

イ 在外教育施設

ウ 教員長期社会体験研修

(4) 以下の者は、研修を免除する。

ア 他の任命権者が実施する中堅教諭等資質向上研修(10年経験者研修)を修了した者

イ 兵庫教育大学・島根大学等大学院派遣研修を修了した者(学校勤務になった年に受講することもできる。)

ウ 特別な事情により、県教育委員会が定める者

3 研修期間と認定

(1) 県教育委員会が定める年度の1年間とする。

(2) 全ての研修を修了した者を研修修了と認定する。なお、研修期間については、特別な事情があった場合、8か月以上の研修期間を有することとする。

※ 年度途中で対象者の研修が継続不能になるおそれがある場合、校長は所属教育センターに連絡すること。

4 所属教育センター

島根県教育センター

5 校内の指導体制

校長は、学校全体としての協力体制を確立し、適宜適切な指導及び助言を行うこと。又、対象者が本研修を実施するにあたり、養護教諭の職務に支障が生じない範囲で校務分掌の軽減等に配慮すること。

6 研修内容

(1) 校内研修

① 課題研究(通年)・課題研究の発表(2回)

[ねらい]

保健管理、保健教育、保健室経営等に関する主題を設定し、1年間を通じて研究を深め、養護教諭の職務の改善を図る。

[内容及び方法]

ア 勤務校が抱えている保健管理、保健教育、保健室経営等の諸問題を解決するための研究主題を設定すること。

イ 課題研究の取組状況と研究結果を教職員の前で発表すること。「中間発表」と「成果発表」をもって2回とする。

ウ 課題研究を進めるにあたり、管理職や研究主任、保健主事等から指導・助言を受けること。

② 授業研究(1回)

[ねらい]

自ら計画・実践・評価・改善を行い、専門性を生かした指導力の向上を図る。

[内容及び方法]

ア 保健教育の研究授業(チーム・ティーチングによる授業※)を実施すること。

※兼職発令を受けている場合は、これに限らない。

イ 「研究授業前の学習指導案審議」「研究授業」「研究協議」をもって1回とする。

ウ 管理職等を含む複数の教員で、協議を行うこと。

(2) メンタルヘルス(1回)

[ねらい]

心身の健康の保持増進を図るために、ストレスに対処する考え方や行動を身に付ける。

[内容及び方法]

2月中旬までに管理職等(ただし、スクールカウンセラーは除く)による研修を受講する。又は、島根県、県教育委員会、市町村及び市町村教育委員会が主催又は後援する研修に参加することで代えてもよい。

なお、旅費が発生する場合は、市町村立学校は「指定旅費」、県立学校は「教職員研修事業費」で対応すること。

(3) 中堅養護教諭としての取組(通年)

[ねらい]

専門的知識及び技能を活かして、学校運営等で重要な役割や若手教員への指導的役割を果たしたり、地域の養護教諭部会等の活動に積極的に参画したりする中で、中堅養護教諭としての自覚を高める。

[内容及び方法]

ア 研修等で得た情報や自らの実践を広く発信し、自校の教育活動に生かすための取組を行うこと。

イ 次のいずれか又は両方に取り組むこと。

(校内) 児童生徒等の健康課題等の解決に向けて、企画力や調整力を発揮し、適切な助言を行う。

(校外) 養護教諭部会等の活動に積極的に参画し、研修で得た情報等を発信する。

なお、具体的な内容については、以下の例を参考にし、事前事後に管理職や主任等から指導を受けること。

校内(例)	校外(例)
・ケース会議の企画・運営及び支援についての助言	・地区の養護教諭部会等で講義または実践発表の企画・運営

(4) 異校種体験研修(2日) ※教職経験6年目研修で実施した者は除く

[ねらい]

異校種の保健室経営、保健管理、健康相談の実際を体験したり、幼児児童生徒の様子を観察したりすること等を通して、系統性や発達段階を踏まえた職務の在り方や異校種間の連携について理解し、自らの教育実践を振り返るとともに指導力の向上を図る。

[研修日数、内容]

2月中旬までに通算2日実施すること。内容は、保健室経営、保健管理、健康相談等に関すること、保健教育等の授業参観やチーム・ティーチングによる授業実践等とすること。

[研修先の範囲]

- ア 小・中学校又は義務教育学校在籍者は、勤務校が所在する市町村又は近隣の幼稚園等又は高等学校、特別支援学校とする。
- イ 高等学校・特別支援学校在籍者は、勤務校が所在する市町村又は近隣の幼稚園等又は小・中学校、義務教育学校とする。
- ウ 養護教諭又は養護助教諭が常勤で勤務している学校・園とする。
- エ 2日とも同一の学校において研修を行うこと。兼務校は不可とする。

[研修の依頼と報告]

- ア 校長及び対象者は、当該研修先を選定し、受け入れ先と協議した後、研修依頼書(参考様式①参照)を研修先の所属長に提出すること。
- イ 対象者は、研修終了後に、校長へ報告すること。

[その他]

旅費が発生する場合は、市町村立学校は「指定旅費」、県立学校は「教職員研修事業費」で対応すること。

(5) 教育センター研修(4.5日)

[ねらい]

- ア 養護教諭としての専門的知識及び技能を高める。
- イ 学校運営等の円滑かつ効果的な実施において、重要な役割を果たす上で必要な資質能力の育成を図る。
- ウ 対象者同士の協議を通して互いに学び、実践的意欲や態度を養う。

[研修方法及び研修場所]

- ア 集合研修(2日) ……………教育センターが指定した会場
- イ オンライン研修(2日) ……………所属校又は校長が指定した場所
- ウ オンデマンド研修(0.5日) ……………所属校又は校長が指定した場所

[教育センター研修の期日・会場、研修項目等]

回		期日	会場	研修項目等
第Ⅰ回	オンライン	5月21日(火)	所属校又は 校長が指定した場所	○開講式 ○オリエンテーション ○学習指導要領と島根の教育 ○養護教諭の職務①(保健教育) ○養護教諭の職務②(健康相談)
第Ⅱ回	オンデマンド	6月～8月末	所属校又は 校長が指定した場所	○教育の情報化1(7月末まで) ○教職員の倫理と服務 ○竹島に関する学習 ○人権教育 ○カリキュラム・マネジメント
第Ⅲ回	集合	8月6日(火)	島根県教育センター	○生徒指導・教育相談 ○教育の情報化2 ○養護教諭の職務③(学校保健マネジメント) ○課題研究中間発表
第Ⅳ回	集合	[西部会場] 10月16日(水)	浜田教育センター	○養護教諭の職務④(危機管理と救急体制) ○養護教諭の職務⑤(健康教育) ○養護教諭の職務⑥ (配慮や支援を要する児童生徒等への対応)
		[東部会場] 11月1日(金)	島根県教育センター	
第Ⅴ回	オンライン	令和7年 2月13日(木)	所属校又は 校長が指定した場所	○特別支援教育 ○課題研究成果発表 ○教育職員としての資質能力を高めるために ○閉講式 ○研修の振り返り

※各回の教育センター研修実施要項は、実施日の3週間前に研修情報システム MyPage に公開する。

※対象者が、教育センター研修を欠席、遅刻、早退、会場・期日の変更をする場合、管理職は所属教育センターに連絡すること。

※教育センター研修を欠席した場合、対象者は所属教育センターの課す補充的研修を校内において実施し、そのレポートを所属教育センターの長に提出すること。なお、レポートは管理職の指導と決裁を受けたものとする。

※第Ⅱ回オンデマンド研修は、研修項目に挙げた項目を全て視聴する。そのうち2つの項目についてオンデマンド研修レポート[様式4]を作成し、校長へ報告した後、研修情報システム MyPage から提出すること。

※第Ⅳ回教育センター研修は、東部と西部に分かれて、教職経験6年目研修(養護教諭)と合同で実施する。

[教育センター研修項目別の目的と内容]

回	研修項目	目的と内容
第Ⅰ回	オリエンテーション	中堅教諭等資質向上研修の意義や目的、内容等を理解し、研修の見通しをもつ。 (ア)研修の意義や目的、内容等 (イ)課題研究の進め方
	学習指導要領と島根の教育	学習指導要領改訂の背景と目指す方向性を学び、新しい時代に必要となる資質・能力の育成について理解するとともに、「しまね教育魅力化ビジョン」について理解を深める。 (ア)学習指導要領の目指す方向性 (イ)「しまね教育魅力化ビジョン」について
	養護教諭の職務① (保健教育)	養護教諭の専門性を生かした保健教育の指導内容や指導方法を考える。 (ア)学習指導要領と保健教育 (イ)学習指導案の書き方
	養護教諭の職務② (健康相談)	健康相談に関わるケース支援の在り方を学び、実践的指導力の向上を図る。 (ア)ケース支援における養護教諭の役割 (イ)解決志向で取り組むケース会議の進め方
第Ⅱ回	教育の情報化1	学習の基盤となる資質・能力の一つである「情報活用能力」の育成や「教育情報セキュリティ」について理解するとともに、教職員に求められるICT活用指導力等の向上を目指す。 (ア)情報活用能力の育成(情報モラルを含む) (イ)教育情報セキュリティ
	教職員の倫理と服務	教職員として、高い倫理観と教職に対する情熱・意欲や使命感、責任感をもつ。 (ア)教育法規等についての理解 (イ)事例から学ぶ
	竹島に関する学習	竹島問題について、歴史的事実や国際法上の根拠等についての理解を深め、竹島に関する学習を充実させるための指導力を高める。 (ア)島根の指導者に求められること (イ)竹島問題についての正しい理解 (ウ)「竹島に関する学習」のこれから
	人権教育	中堅教諭等として、誰もが安心して学びに向かえる学校づくりを推進するためのコーディネートをする力を身に付ける。 (ア)島根が目指す人権教育の理念に基づく組織的な取組の推進 (イ)人権が尊重される環境・集団づくり
	カリキュラム・マネジメント	教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントについて理解し、組織の一員としての実践意欲を高める。 (ア)カリキュラム・マネジメントの意義 (イ)カリキュラム・マネジメントの進め方・組織の一員としての役割
第Ⅲ回	生徒指導・教育相談	児童生徒・保護者等を適切に支援し、様々なケースに対応していく力量や校内での生徒指導・教育相談の推進を図るための実践力を高める。 (ア)児童生徒・保護者等への支援 (イ)状況に応じた連携支援
	教育の情報化2	学習の基盤となる資質・能力の一つである「情報活用能力」の育成や「教育情報セキュリティ」について理解するとともに、教職員に求められるICT活用指導力等の向上を目指す。 (ア)情報活用能力の育成(情報モラルを含む) (イ)教育情報セキュリティ (ウ)教科等の指導におけるICT活用
	養護教諭の職務③ (学校保健マネジメント)	学校保健マネジメントについて学び、学校保健組織活動における養護教諭の役割について理解を深め、企画力を高める。 (ア)学校保健マネジメント (イ)効果的な運営方法
	課題研究中間発表	課題研究推進上の課題を明らかにし、今後の実践のための方向性や具体的な方法を考える。 (ア)課題研究中間発表 (イ)研究計画の検討及び修正
第Ⅳ回	養護教諭の職務④ (危機管理と救急体制)	学校事故対応に関する指針についての理解を深め、各学校における救急体制の充実を図る。 (ア)危機管理体制 (イ)救急体制および研修会の検討
	養護教諭の職務⑤ (健康教育)	児童生徒等の健康に関する諸課題の専門的知識について理解を深め、校内での組織的な健康教育の推進を図るための力量を高める。 (ア)現代的健康課題への対応
	養護教諭の職務⑥ (配慮や支援を要する児童生徒等への対応)	配慮や支援を要する児童生徒等への対応における養護教諭の役割について理解を深め、校内における支援体制の充実を図る。 (ア)学校における医療的ケアの考え方 (イ)配慮や支援を要する児童生徒等への対応における養護教諭の役割
第Ⅴ回	特別支援教育	共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進について理解を深め、校内での特別支援教育の推進を図るための実践力を高める。 (ア)校内における特別支援教育の推進
	課題研究成果発表	課題研究の成果と課題を明らかにし、次年度の実践の在り方を考える。 (ア)課題研究成果発表 (イ)協議
	教育職員としての資質能力を高めるために	持続可能な学校教育の中で、自らの人間性や創造性を高め、教育職員としての充実感を得るとともに、子どもの生きる力を育む教育活動を行うために学び続けようとする実践意欲を高める。 (ア)これからの学校教育を担う新たな教師の学びの姿 (イ)学校組織マネジメントの必要性
	研修の振り返り	中堅教諭等資質向上研修(養護教諭)を振り返り、次年度以降の取組への展望と意欲をもつ。 (ア)1年間の振り返り

7 研修計画

(1) 自己評価

- ・対象者は、5つの「育成指標における資質能力」について、資質能力自己評価表[様式1]の「研修前評価」を記入し、これまでの実践等を振り返り、自己の優れている点及び課題を計画書[様式2]に記入すること。
- ・対象者は、5つの「育成指標における資質能力」の中から、「重点とする資質能力」を2つ選び、今年度伸ばしたい点を計画書[様式2]に記入すること。ただし、「3職務にかかわる専門的知識・技能及び態度」と「4学校組織の一員として考え行動する意欲・能力」から1つ以上選ぶこと。

(2) 校長面接

- ・校長は、島根県教職員評価システムにおける年度当初の面接等を利用し、上記(1)自己評価について対象者と面談を行うこと。
- ・校長は、対象者の資質能力や課題、得意分野、研修内容の希望等について聴取するとともに、対象者に対する今年度の育成方針について伝え、共通理解を図ること。

(3) 研修計画(計画書[様式2]については、P14、15「計画書記入例」を参照)

- ・対象者は、管理職と相談しながら研修計画を立て、計画書[様式2]を作成し、校長に提出すること。

(4) 研修計画書の提出

- ・校長は、対象者から提出された計画書を、研修情報システム学校 Page[報告書提出]から PDF ファイルで提出すること。

8 研修報告

(1) 自己評価

- ・対象者は、5つの「育成指標における資質能力」について、資質能力自己評価表[様式1]を基に1年間の実践等を振り返ること。
- ・対象者は、計画時に選んだ「重点とする資質能力」の2つについて、取組に対する成果と次年度以降の展望について報告書[様式7]に記入すること。

(2) 校長面接

- ・校長は、島根県教職員評価システムにおける年度末の面接等を利用し、対象者と面談を行うこと。
- ・校長は、対象者の資質能力について向上したところ、取組の成果や課題、今後への期待などを対象者に伝えること。

(3) 研修報告(報告書[様式7]については、P22、23「報告書記入例」参照)

- ・対象者は、校長面接で受けた指導・助言等をもとに、報告書[様式7]を作成し、課題研究レポート(最終報告用)[様式5]、学習指導案(密案1回分)、研究協議の記録[様式6](1回分)と共に、校長に提出すること。
- ・校長は、対象者から提出された報告書[様式7]、課題研究レポート[様式5]、学習指導案、研究協議の記録[様式6]を、研修情報システム学校 Page[報告書提出]から PDF ファイルでそれぞれ別々に提出すること。

9 提出物、提出方法及び締切日

	様式	提出物	提出方法		締切日
			研修情報システム		
			My Page	学校 Page	
①	様式2	計画書		○	7月11日(木)
②	様式3	課題研究計画書	○		7月18日(木)
③	様式4	オンデマンド研修レポート	○		9月19日(木)
④	様式5	課題研究レポート(成果発表用)	○		令和7年 1月23日(木)
⑤	様式5	課題研究レポート(最終報告用) ※研修情報システムから接続できるサイトに掲載するので、記載内容については著作権や個人情報、肖像権等に十分配慮すること。		○	2月27日(木)
⑥	—	学習指導案(密案1回分)		○	
⑦	様式6	研究協議の記録(1回分)		○	
⑧	様式7	報告書		○	

※一覧表を参照し、校長の指導、決裁を受け、締切日までにPDFファイルで提出すること。

※対象者は、②③④を研修情報システム MyPage の[マイキャビネット]から提出すること。

※対象者は、①⑤⑥⑦⑧を校長に提出すること。

※校長は、①⑤⑥⑦⑧を研修情報システム学校 Page の[報告書提出]から別々に提出すること。

※著作権、個人情報及び肖像権等に十分配慮すること。

10 その他

研修の成果は、職員へ還元し、より多くの職員の資質能力の向上と学校の活性化につながるよう努めること。さらに、校内研修はもとより、県内の各種研修会等で積極的に発表することが望ましい。

中堅教諭等資質向上研修 (養護教諭)

様式

【評価】 4:よく当てはまる 3:当てはまる 2:およそ当てはまる 1:当てはまらない ○で囲む

資質能力		育成指標	評価項目	研修前評価	研修後評価
1 豊かな人間性と職務に対する使命感	人間理解・人権意識	・生命尊重・人権尊重の精神と、多様な価値観を尊重する態度を有している。	職員の姿が子どもに影響を及ぼすことを理解し、子どもが一人の人間として大切にされていると実感できる環境づくりを心掛けている。	4 3 2 1	4 3 2 1
			あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な価値観を尊重する態度や幅広い視野・知識を身に付けている。	4 3 2 1	4 3 2 1
	職務に対する誇りと責任	・教育職員として必要な倫理観、職務に対する使命感・責任感を持ち、自分の将来のキャリアや求められる役割を意識しながら、変化に応じて常に学び続けようとしている。 ・危機管理の知識や視点を持ち、教育活動における事故・災害等に普段から備えている。 ・関係法の理念を十分理解し、教育職員等による児童生徒性暴力等を断固として許さず、子どもの尊厳を保持しようとしている。	高い倫理観と教職に対する使命感、責任感を持ち、教育職員として生涯を通じて学び続け、子ども一人一人の主体的な学びを支援する伴走者としての役割を果たしている。	4 3 2 1	4 3 2 1
			危機管理意識を高め、教育活動における事故・災害等に対して備えたり、事前指導、対応、事後指導を行ったりできるようにしている。	4 3 2 1	4 3 2 1
ふるさとを愛する心	・地域の自然・歴史・文化・伝統を理解し尊重する態度、ふるさとを愛する人材育成への意欲を有している。	ふるさとを愛し、県や学校の所在する地域の特長を理解するとともに、「ふるさと教育」を積極的に行っている。	4 3 2 1	4 3 2 1	
2 子どもの発達の支援に対する理解と対応	生徒指導の推進	・子どもの心身の発達やキャリア発達に対する理解を保護者とも連携しながら深め、個に応じた指導や学年等の集団指導を実践することができる。	子どもとの信頼関係づくりに努めるとともに、子ども相互の好ましい人間関係を構築する視点で個に応じた指導や集団指導を積極的に行っている。	4 3 2 1	4 3 2 1
			学校の特色や地域の実情を踏まえつつ、日常的な教育活動を通じて、子どもたちが社会的自立に向けた資質・能力を身に付けられる取組を積極的に行っている。	4 3 2 1	4 3 2 1
			子どもが、学ぶことと社会とのつながりを意識し、自分らしい生き方を実現するための支援を、家庭や地域等と連携して組織的に行っている。	4 3 2 1	4 3 2 1
	特別支援教育の推進	・特別な配慮や支援の必要な子ども一人一人の支援計画・指導計画に基づき、学習上・生活上の支援の工夫、指導の実践を行うことができる。 ・インクルーシブ教育システムの理念、授業のユニバーサルデザイン化、合理的配慮の提供に関する考え方を踏まえて、教育活動を実践することができる。	一人一人の教育的ニーズを把握し、支援計画や指導計画に基づき、子どもが主体的に学ぶ授業実践に努めている。	4 3 2 1	4 3 2 1
校内の教職員間で共通理解を図り、すべての子どもの学びが保障されるための学習環境づくりや授業実践に努めている。			4 3 2 1	4 3 2 1	
3 職務にかかわる専門的知識・技能及び態度	教科等の指導に関する専門性	・教科等の専門的知識及び技能の習得に努めるとともに、カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、その視点をふまえて教科等を相互に関連させながら協働して授業研究を行うなど意欲的に教育実践に取り組むことができる。 ・子どもの「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組むなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業を行うことができる。	保健管理 救急処置、健康診断、健康観察、疾病管理・予防を円滑に実施し、自校の健康課題を把握するとともに、課題解決を図るための有効な取組について計画、実施、評価、改善を続けている。	4 3 2 1	4 3 2 1
			保健教育 カリキュラム・マネジメントを意識し、学級（ホームルーム）活動、児童生徒会活動、学校行事及び総合的な学習（探究）の時間等における保健教育に関する指導計画の策定に積極的に参画し、担任等と協力して授業実践（ティーム・ティーチング等）を行っている。	4 3 2 1	4 3 2 1
	ICTや情報の活用	・教育データを整理・分析し適切に業務に取り入れながら、ICTをより効果的な形で活用することができる。 ・学校におけるICT活用の意義を理解し、教育活動の中で効果的に活用するとともに、他の教職員と共有し広めていくことができる。 ・子どもの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための授業実践を行うことができる。	ICTを活用し、子どもの情報活用能力育成のための計画立案や実践に努めている。	4 3 2 1	4 3 2 1
			校務の効率化及び子どもの学習や生活の改善を図るため、教育データを適切に活用している。	4 3 2 1	4 3 2 1
	社会の変化への対応	・新たな学びや教育課題に対して、適切な対応の仕方を提案し、協働して取り組むことができる。	健康相談 いじめや虐待、不登校等の早期発見・早期対応に努め、心身の健康問題の背景にあるものを的確に捉えるとともに、関係者が連携・協働する支援体制の充実に努めている。	4 3 2 1	4 3 2 1
			保健室経営 学校教育目標及び学校保健目標の具現化を目指して、保健室経営計画を策定し、職員へ周知を図り、実施、評価、改善を行い、計画的、組織的に保健室経営ができるよう努めている。	4 3 2 1	4 3 2 1

資質能力		育成指標	評価項目		研修前評価	研修後評価
4 学校組織の一員として考え行動する意欲・能力	学校組織マネジメント	・組織の一員としての役割を理解し、学校の課題に対応することができる。	保健組織活動	学校保健委員会等の組織活動の企画運営に参画し、学校医等や保護者、関係者の協力を得て、地域社会と連携して効果的な活動に取り組んでいる。	4 3 2 1	4 3 2 1
				組織の一員としての役割を理解し、教師は創造的で魅力ある仕事であることの認識と誇りをもって働いているとともに、働き方改革の実現に向けて積極的に取り組んでいる。	4 3 2 1	4 3 2 1
	他者との連携・協働	・経験豊かな教職員から多くのことを学ぶとともに、同僚と連携・協働しつつ、後進に助言を与えるなどして育成にも目を向けることができる。	保健組織活動	担当分掌において、他の職員との連携・協働を図り、進捗状況を把握、調整したり、適切な助言をしたりして学校保健活動を進めている。	4 3 2 1	4 3 2 1
				同僚等から学ぶ姿勢をもつとともに、連携・協働して自校の課題解決を図っている。	4 3 2 1	4 3 2 1
5 よりよい社会をつくるための意欲・能力	地域資源の活用と地域貢献	・学校外の様々な地域資源や機会を活用し、地域と連携した学校教育活動を効果的に実践することができる。		学校外の教育資源を教育課程の内容と効果的に組み合わせ、地域住民等と連携・協働して教育活動に取り組んでいる。	4 3 2 1	4 3 2 1
				魅力ある学校づくりが、魅力ある地域づくりにつながることを理解し、それを地域と共有し、互いに活性化するようにしている。	4 3 2 1	4 3 2 1
	合意形成に向けた議論の調整・促進	・現実の社会や地域との関わりを意識しながら、子ども同士が議論をしたり、合意形成を図ったりするよう促すことができる。		魅力ある学校づくり（学校教育目標の実現）を目指して職員が議論をしたり、協働したりするように働きかけている。	4 3 2 1	4 3 2 1
				子どもが集団や自己の生活、人間関係等の課題を解決するために、話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりできるような場面を意図的に設定している。	4 3 2 1	4 3 2 1

様式 2 (養護教諭)

〇〇〇 第 〇〇 号
令和 6 年 〇 月 〇〇 日

島根県教育センター 所長 様

〇〇〇〇 学校
校長 〇〇 〇〇

令和 6 年度 中堅教諭等資質向上研修 計画書

1 対象者

職名	養護教諭	氏名		研修用個人番号 (3桁) ※	
主な校務分掌					

※第 I 回教育センター研修で配付した名簿の氏名の前に記載されている 3 桁の番号 (8 桁の職員番号ではない)

2 事前自己評価

育成指標における資質能力	優れている点及び課題
1 豊かな人間性と職務に対する使命感	
2 子どもの発達の支援に対する理解と対応	
3 職務にかかわる専門的知識・技能及び態度	
4 学校組織の一員として考え行動する意欲・能力	
5 よりよい社会をつくるための意欲・能力	
重点とする資質能力 (番号)	今年度伸ばしたい点
上から選びその数字を記入 ()	
上から選びその数字を記入 ()	

※記入にあたっては、P7、14、15 を参照すること。

3 研修計画

(1) 課題研究

研修内容等	実施予定日	校内外の指導助言者等
中間発表	月 日	
成果発表	月 日	

(2) 授業研究

研修内容等	実施予定日	校内外の指導助言者等
学習指導案審議	月 日	
研究授業	月 日	
研究協議	月 日	

(3) メンタルヘルス

実施予定日	月 日	指導者(研修会名)	

(4) 中堅養護教諭としての取組

どちらかに○	内容
() 校内	
() 校外	

(5) 異校種体験研修 (2日)

実施予定日	研修先	研修内容
月 日		
月 日		

※PDFファイルに変換し、ファイル名を【中堅研・計画書・研修用個人番号・学校名・氏名】として、提出すること。
 ファイル名例【中堅研・計画書・333・〇〇中・〇〇〇〇】

様式 2 (養護教諭)

記入例

島教セ第 1 2 3 号
令和 6 年 〇〇 月 〇〇 日

島根県教育センター 所長 様

「文書番号」を取得すること。
例「島教セ第 123 号」

〇〇〇〇 学校
校長 〇〇 〇〇

令和 6 年度 中堅教諭等資質向上研修 計画書

1 対象者

職名	養護教諭	氏名	〇〇 〇〇	研修用個人番号 (3桁) ※	333
主な校務分掌		保健部・保健部長、保健主事、給食主任、〇〇学年部付、〇〇部副顧問			

※第 I 回教育センター研修で配付した名簿の氏名の前に記載されている 3 桁の番号 (8 桁の職員番号ではない)

2 事前自己評価

育成指標における資質能力	優れている点及び課題
1 豊かな人間性と職務に対する使命感	自主的に研修会に参加し、養護教諭の専門性の向上に努めたり・・・
2 子どもの発達の支援に対する理解と対応	支援を必要とする生徒への対応において、関係機関との連携に課題がみられ・・・
3 職務にかかわる専門的知識・技能及び態度	健康診断を計画的に実施することはできるが、健康診断の結果から把握できる健康課題の解決に向けて・・・
4 学校組織の一員として考え行動する意欲・能力	毎年度、保健室経営計画を作成し、評価して改善を行っている。効果的な保健組織活動が・・・
5 よりよい社会をつくるための意欲・能力	地域に向けて発信したり・・・
重点とする資質能力 (番号)	今年度伸ばしたい点
上から選びその数字を記入 (2)	不登校傾向の生徒が、社会とのつながりを意識できるような支援について担任や関係職員と相談する機会を設け、チームで支援できるようにする。具体的には、・・・
上から選びその数字を記入 (3)	健康診断の結果から把握できる生徒の健康課題を、教職員に周知するとともに、課題解決に向けての取組を実施していく。具体的には・・・

1～5から2つ選ぶ
※3、4から1つ以上選ぶ

※記入にあたっては、P7、14、15 を参照すること。

3 研修計画

実施予定日は「〇月〇日」又は「〇月上旬」等を記入する。

(1) 課題研究

研修内容等	実施予定日	校内外の指導助言者等
中間発表	7月18日	研究主任、保健部教員
成果発表	2月上旬	校内職員

(2) 授業研究

研修内容等	実施予定日	校内外の指導助言者等
学習指導案審議	10月中旬	研究主任、実施クラス担任
研究授業	11月20日	校内職員
研究協議	11月20日	校内職員

校外研修の場合は、主催者等を記入する。

(3) メンタルヘルス

実施予定日	8月5日	指導者(研修会名)	教育庁福利課
-------	------	-----------	--------

(4) 中堅養護教諭としての取組

どちらかに○	内容
() 校内	地域の養護教諭部会において、養護教諭研修で得た職務に係る情報の共有と勤務校の課題について情報交換の場を設定する。
(○) 校外	

(5) 異校種体験研修 (2日)

実施予定日	研修先	研修内容
11月5日	〇〇立〇〇小学校	保健室経営の実際 児童保健委員会への参加
11月6日		

計画書提出までに期日が決まらない場合は、「未定」と記入。

教職経験6年目研修で実施した場合は、研修先の欄に「教職経験6年目研修で実施済み」と記入する。実施予定日及び研修内容の欄は、空欄とする。

※PDFファイルに変換し、ファイル名を【中堅研・計画書・研修用個人番号・学校名・氏名】として、提出すること。
ファイル名例【中堅研・計画書・333・〇〇中・〇〇〇〇】

様式3 (養護教諭)

令和6年度 中堅教諭等資質向上研修 課題研究計画書

学校名 () 個人番号・氏名 (.)

研究主題 (研究テーマ)

- 1 研究動機
- 2 研究目的
- 3 研究の背景・意義
- 4 用語・概念の定義
- 5 研究仮説
- 6 研究の方法及び対象
- 7 研究のタイムスケジュール
- 8 課題研究中間発表の協議時間に相談したいことなど

※A4判縦1～2ページにまとめること。

※項目1、2、5～8は必ず記入すること。

※活用予定のアンケート用紙、ワークシート等があれば添付してもよい(教科書等の複製は不可)。

※記載内容については、著作権や個人情報、肖像権等に十分配慮すること。

様式4 (養護教諭)

令和6年度 中堅教諭等資質向上研修 オンデマンド研修レポート

学校名 () 個人番号・氏名 (.)

理解できた内容や意識の変容、実践にどう生かしていくかなどについてまとめる。

研修項目① ()

研修項目② ()

※オンデマンド研修の全ての項目を視聴し、そのうち2つの項目について記入すること。

※A4判縦1ページ程度にまとめること。

様式5（養護教諭）

令和6年度 中堅教諭等資質向上研修 課題研究レポート

学校名（ ） 個人番号・氏名（ ・ ）

研究主題

（記載する内容例）

- 1 研究の動機
- 2 研究の目的
- 3 研究仮説
- 4 研究の方法
- 5 結果
- 6 考察
- 7 成果と課題
- 8 参考文献等

※活用したアンケート用紙、ワークシート等があれば添付してもよい(教科書等の複製は不可)。

※研修情報システムから接続できるサイトに掲載するので、記載内容については著作権、個人情報や肖像権等に十分配慮すること。

※PDFファイルに変換し、ファイル名を【中堅研・課題研究・研修用個人番号・学校名・氏名】として、提出すること。
ファイル名例【中堅研・課題研究・333・〇〇中・〇〇〇〇】

様式6 (養護教諭)

令和6年度 中堅教諭等資質向上研修 研究協議の記録

学校名 () 個人番号・氏名 (.)

1 研究協議の内容 (授業参観者の意見等)

2 考察 (成果と課題、今後の取組等)

※A4判縦1ページ程度にまとめること。

※PDFファイルに変換し、ファイル名を【中堅研・研究協議・研修用個人番号・学校名・氏名】として、提出すること。
ファイル名例【中堅研・研究協議・333・〇〇中・〇〇〇〇】

様式7 (養護教諭)

〇〇〇第〇〇号
令和7年〇月〇〇日

島根県教育センター所長 様

〇〇〇〇学校
校長 〇〇 〇〇

令和6年度 中堅教諭等資質向上研修 報告書

1 対象者

職名	養護教諭	氏名		研修用個人番号 (3桁) ※	
----	------	----	--	-------------------	--

※第I回教育センター研修で配付した名簿の氏名の前に記載されている3桁の番号(8桁の職員番号ではない)

2 研修の実施状況

研修項目	実施日	研修内容等	校内外の指導助言者等
課題研究	月 日	中間発表	
	月 日	成果発表	
授業研究	月 日	学習指導案審議	
	月 日	研究授業	
	月 日	研究協議	
メンタルヘルス	月 日		
中堅養護教諭 としての取組	対象	<input type="checkbox"/> 校内 () <input type="checkbox"/> 校外 ()	
	【成果】		
異校種体験研修 (2日)	実施日	研修先	
	月 日		
	月 日		

※記入にあたっては、P7、22、23を参照すること。

3 対象者の自己評価

育成指標における 資質能力	取組に対する成果	次年度以降の展望
選択してください		
選択してください		

※PDFファイルに変換し、ファイル名を【中堅研・報告書・研修用個人番号・学校名・氏名】として、提出すること。
ファイル名例【中堅研・報告書・333・〇〇中・〇〇〇〇】

記入例

島教セ第 123 号
令和 7 年〇月〇日

「文書番号」を取得すること。
例「島教セ第 123 号」

島根県教育センター所長 様

〇〇〇〇学校
校長 〇〇 〇〇

令和6年度 中堅教諭等資質向上研修 報告書

1 対象者

職名	養護教諭	氏名	〇〇 〇〇	研修用個人番号 (3桁) ※	333
----	------	----	-------	-------------------	-----

※第I回教育センター研修で配付した名簿の氏名の前に記載されている3桁の番号(8桁の職員番号ではない)

2 研修の実施状況

実施日は、計画書の実施予定日と異なってもよい。

研修項目	実施日	研修内容等	校内外の指導助言者等
課題研究の発表	〇月〇日	中間発表	研究主任、 保健部教員
	〇月〇日	成果発表	校内職員
授業研究	〇月〇日	授業 審議	研究主任、 実施クラス担任
	〇月〇日	授業 審議	校内職員
	〇月〇日	「教職員のメンタルヘルス」 教育庁福利課	校内職員
中堅養護教諭 としての取組	<input type="checkbox"/> 校内 () <input checked="" type="checkbox"/> 校外 (地区の養護教諭部会の出席者)		
異校種体験研修 (2日)	実施日	研修先	
	〇月〇日	〇〇立〇〇小学校	
	〇月〇日		

どちらかにをして、対象者を具体的に記入する。
はチェックと入力して変換する。

県、市町村、教育委員会主催の研修を受講した場合は、主催者と研修名を記入する。

※記入にあたっては、P7、22、23を参照すること。

教職経験6年目研修で実施した場合は、
研修先の欄に「教職経験6年目研修で実施済み」と記入する。
実施日の欄は、空欄とする。

3 対象者の自己評価

育成指標における 資質能力	成果	次年度以降の展望
<p>子どもの発達への支援に対する理解と対応</p>	<p>不登校傾向の生徒に対して・・・に取り組んだ。担任との連携については・・・</p>	<p>今後・・・ 校内全体に・・・したい。</p>
<p>職務にかかわる専門的知識・技能及び態度</p>	<p>本校の生徒の健康課題であるう歯について、健康診断の時間で・・・に取り組んだ。その後クラスでの指導も・・・</p>	<p>今年度・・・ 次年度以降は・・・したい。</p>

様式2の自己評価で選んだ「重点とする資質能力」をプルダウンリストから選択する。

※PDFファイルに変換し、ファイル名を【中堅研・報告書・研修用個人番号・学校名・氏名】として、提出すること。
ファイル名例【中堅研・報告書・333・〇〇中・〇〇〇〇】

〇〇〇 第〇〇号
令和〇年〇〇月〇〇日

〇〇学校・園長 様

〇〇学校長

研 修 依 頼 書

下記のとおり研修を行いたいので依頼します。

記

- 1 研修者名
- 2 研修名 中堅教諭等資質向上研修 異校種体験研修
- 3 目的 異校種の保健室経営、保健管理、健康相談の実際を体験したり、幼児児童生徒の様子を観察したりすること等を通して、系統性や発達段階を踏まえた職務の在り方や異校種間の連携について理解し、自らの教育実践を振り返るとともに指導力の向上を図る。
- 4 研修日 年 月 日()、 月 日()
- 5 研修内容
- 6 連絡先

第〇学年 学級活動（ ）学習指導案

学 校 名

指導者氏名 T 1

T 2

1 題材名

2 題材の目標

3 評価規準

4 題材について

※ 主に児童生徒観、題材観、指導観など

5 事前の指導

児童（生徒）の活動	指導上の留意点	観点・評価方法

6 本時の学習

(1) 本時のねらい

(2) 展開（例）

児童（生徒）の活動	指導上の留意点		資料	観点・評価方法
	T1	T2		

(3) 本時の評価

十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て

7 事後の指導

児童（生徒）の活動	指導上の留意点	観点・評価方法

※この様式は参考例であるため、各学校の実態に応じた様式で作成すること。枚数は自由とする。

※以下の資料等を参考にしてもよい

- ・改訂「生きる力」を育む小学校保健教育の手引（文部科学省）
- ・改訂「生きる力」を育む中学校保健教育の手引（文部科学省）
- ・改訂「生きる力」を育む高等学校保健教育の手引（文部科学省）＜文部科学省HPに掲載＞
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）

第〇学年〇〇科学習指導案

学 校 名

指導者氏名 T 1

T 2

1 単元（題材）名

2 単元（題材）の目標

3 単元（題材）の評価規準

4 単元（題材）について

※主に教材観、児童生徒観、指導観などを簡潔にまとめること。

5 単元（題材）の指導と評価の計画

※ 単元（題材）目標を達成するための指導内容と、評価場面及び評価方法を記載する。

6 本時の学習（例）

(1) 目標

(2) 展開

学習活動と予想される児童生徒の反応	教師の支援

(3) 本時の評価

十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て

※この様式は参考例であるため、各学校の実態に応じた様式で作成すること。枚数は自由とする。

※項目等は、各教科等に応じて変更すること。

※以下の資料等を参考にしてもよい。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）